

2023年11月14日

各位

会社名 株式会社エー・ピーホールディングス
代表者名 代表取締役会長 兼 社長 米山 久
(コード: 3175)
問合せ先 経営企画・IR室 室長 坂上 輝瑛
(TEL. 03-6435-8440)

第2四半期業績予測数値と実績値との差異に関するお知らせ

2023年5月15日に公表した、2024年3月期第2四半期(累計)業績予測数値と本日公表の当第2四半期(累計)の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 業績予測数値と実績値との差異

(1) 2024年3月期第2四半期累計期間連結業績予測数値と実績値との差異

(2023年4月1日～2023年9月30日)

(単位: 百万円、%)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予測(A)	9,800	26	4	—	—
実績値(B)	9,947	△450	△394	△411	△34.00
増減額(B-A)	147	△476	△398	△411	—
増減率(%)	1.5%	—	—	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2023年3月期第2四半期)	7,592	△1,230	△641	△669	△71.97

(注) 2024年3月期連結業績予測の1株当たり当期純利益については、親会社株主に帰属する当期純利益から、A種・B種種類株式にかかる配当金額が未定のため、算出しておりません。

2. 差異が生じた理由

外食産業におきましては、需要の回復の兆しが見られるものの、急速な円安の進行や人材不足、原材料価格や物価の高騰によるコストの上昇に加えて、深夜時間帯を中心とした消費の回復が鈍いことから、依然として厳しい経営環境にあります。

新型コロナウイルス感染症が5月に感染症法上の分類において5類に移行されて以降、回復基調にある国内飲食消費やインバウンド需要の高まりによって、連結売上高は前回予測を上回るものの、香港事業が中国国内の景気悪化に加えて、ALPS処理水放出により日本食を敬遠する動きが見られたこと等の影響で、営業利益、経常利益につきましては、前回予測を下回ることとなりました。

また、通期の業績予測につきましては、緊迫する国際情勢による原材料価格の上昇等、不透明感が増しておりますが、香港事業につきましては今後回復が見込めないと見込める店舗の撤退や本部コストの削減と収益構造の改善に努めており、下期の業績に与える影響は減少すると考えております。また、国内飲食事業と共に、好調を維持するインドネシアでは、9月にジャカルタ近郊のショッピングモールに4号店を出店しており、堅調に推移をしていることから、前回予測を変更しておりません。今後、業績予測を見直す必要が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

(注) 上記の業績予測は、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予測値と異なる可能性があります。

以上